

# G空間情報センター

ニュースレター 第19号 2020年5月発行

## 【目次】

[1.TOPICS「スマートシティの先のデジタルツインへ」](#)

[2.上位アクセス状況\(集計期間：2020.3.1-4.30\)](#)

[3.最新のお知らせ&イベント情報](#)

[4.センターへの期待「今だからできること ～家の中で新型コロナウイルスを考えてみよう～」](#)

[5.注目の新規コンテンツ紹介](#)

## 1.TOPICS「スマートシティの先のデジタルツインへ」



株式会社パスコ 岩崎秀司

### ●都市計画基礎調査データのオープンデータ化の取組

一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会（AIGID）と東京大学生産技術研究所は、国土交通省等の協力のもと、平成30年度及び令和元年度に自治体参加による「都市計画基礎調査データ流通研究会」を開催しました。研究会では、自治体が行う都市計画基礎調査データ（土地利用及び建物）のオープンデータ化に向けた検討を実施し、令和元年度末には、G空間情報センターを通じて、8府県、3政令市171自治体の都市計画基礎調査データのオープンデータ化が実行されました。

都市計画基礎調査データは、一定のサイクルで情報の更新が行われ、自治体内部でスマートシティに向けたまちづくりや都市計画を検討するための基礎資料として活用されています。このオープンデータ

化により、今後は自治体内部の利用だけでなく、学術研究機関や民間企業等、様々な主体が多様な目的のため利用することが期待され、ますます、都市計画基礎調査データのオープンデータ化や利活用が促進されることが予想されます。

## ●2次元地図から3次元都市モデルを利用したデジタルツインへ

これまでの自治体がスマートシティ等のまちづくりを検討するための資料は、都市計画基礎調査データのように2次元の地図としてGIS等で表現され、様々な施策の検討等に活用されてきました。しかし近年では、AIやビッグデータ解析等のIoT技術の進展により、高度な分析やシミュレーションが行えるようになってきました。そこで、都市の建物や地物などの状況をまるごとサイバー空間上に精密に再現し、そこにリアルタイムな気象データや人流データ等の様々な動的データと、都市計画基礎調査データ等の静的データを組合せ、サイバー空間上に表現された都市モデル上で様々なシミュレーションを行い、実際のまちづくりにより精度の高いフィードバックするデジタルツインの実現が注目されています。

例えば、3次元都市モデルを利用することで、災害発生時の被害状況を把握するためのシミュレーションの高度化を図ったり、将来的にはドローンの自動配送等にも活用できると考えられます。

## ●デジタルシティサービスの提供

AIGIDでは、都市計画基礎調査データのオープンデータ化を推進するとともに、これらのデータを有効に活用するためのデジタルシティサービスを2020年6月から提供を開始いたします。デジタルシティサービスとは、自治体の単位を基本に各地域の行政を中心とした様々なデータをG空間情報センター上で保管、管理、可視化(3次元を含む)API提供を行っていくものです。

今後AIGIDでは、国土交通省が現在取組整備を進めている国土交通データプラットフォームとの連携も視野に入れ、デジタルシティサービスの普及推進を図って行く予定です。



図 都市計画基礎調査データを活用して再現された3次元都市モデルの例

- デジタルシティサービスの詳細は、[コチラ](#)をご確認ください。
- また、気になることがありましたら、[コチラ](#)にてお問い合わせください。
- 国土交通プラットフォームに関する取組の詳細は、[コチラ](#)を確認ください。

## 2. 上位アクセス状況(集計期間：2020.3.1-4.30)

登録ユーザー数	6,597 名
期間アクセス数	314,517
登録組織数	453 件
データセット数	5,523 件
ファイル数	49,232 件

### 上位アクセスデータ

順位	データセット名 データプロバイダ名
1	22130_静岡県_浜松市_その他の公共施設/資源物回収拠点一覧 (民間) 浜松市
2	兵庫県_全域_標高ラスター/CS 立体図 (2010 年度~2018 年度) /Indexmap (GeoJSON ファイル) 兵庫県
3	平成 27 年国勢調査町丁・字等別境界データ/平成 27 年国勢調査町丁・字等別境界データ 総務省 統計局
4	将来人口・世帯予測ツール V2 (H27 国調対応版) /利用規約 国土交通省 国土技術政策総合研究所
5	静岡県地域防災計画資料編 I (平成 30 年 8 月) /静岡県地域防災計画資料編 I (平成 30 年 8 月) 静岡県
6	将来人口・世帯予測ツール V2 (H27 国調対応版) />将来人口・世帯予測ツール V2 (H27 国調対応版) のイメージ 国土交通省 国土技術政策総合研究所
7	CS 立体図作成ツール/CS 立体図作成 QGIS プラグイン 長野県林業総合センター
8	142051_神奈川県_藤沢市_AED/A E D設置事業所 藤沢市
9	静岡県地域防災計画資料編 II (平成 30 年 8 月) /静岡県地域防災計画資料編 II (平成 30 年 8 月) 静岡県
10	通行止め情報/道路情報提供システム (四国地方整備局) 国土交通省 道路局

### 3. 最新のお知らせ & イベント情報

#### 6月開催【超入門！】GIS オンライン講座『初めてでも自分だけのマップが作れる！！』

とりあえず QGIS を触ってみよう、という講座です。  
初めての方、超初心者の方対象です。

[詳細・お申込みはこちら \(Peatix のサイト\)](#)

その他 G 空間情報センターの最新のお知らせは [こちら](#)

最新のデータ公開情報は [こちら](#)

### 4. センターへの期待「今だからできること ～家の中で新型コロナウイルスを考えてみよう～」



朝日航洋株式会社 大伴真吾

#### ●私と G 空間情報センター

私と G 空間情報センターとの関わりは古く、2014 年に総務省が行った「G 空間プラットフォームの開発・実証に係る請負」業務にて、取り扱うべきデータやシステムが持つべき機能の設計、システムづくりを行った頃から関与してきました。当時作成したサイトがこちらです（図 2）。ここから現在の G 空間情報センターのトップページへと進化してきたのです。進化の過程においては、産学官の皆様方から、貴重なご意見などをいただきましたこと、改めて感謝いたします。

#### ●新型コロナウイルスの影響下での地理空間情報の活用の勧め

さて、現在私たちが直面している大きな課題として新型コロナウイルス（COVID-19）対策があります。感染症といえば英国の医師ジョン・スノウの名前を思い浮かべる方がいると思います。彼は、19 世紀半ばにロンドン市内で流行したコレラの感染者の位置をマッピングした結果（図 1）、ある井戸の近くに多くいることを突き止め、当時空気感染とされていたコレラが水を媒体としていたことがわかりました。この発見以降、コレラの蔓延を防止できたとされ、地図を使った課題解決として功績を残された方です。

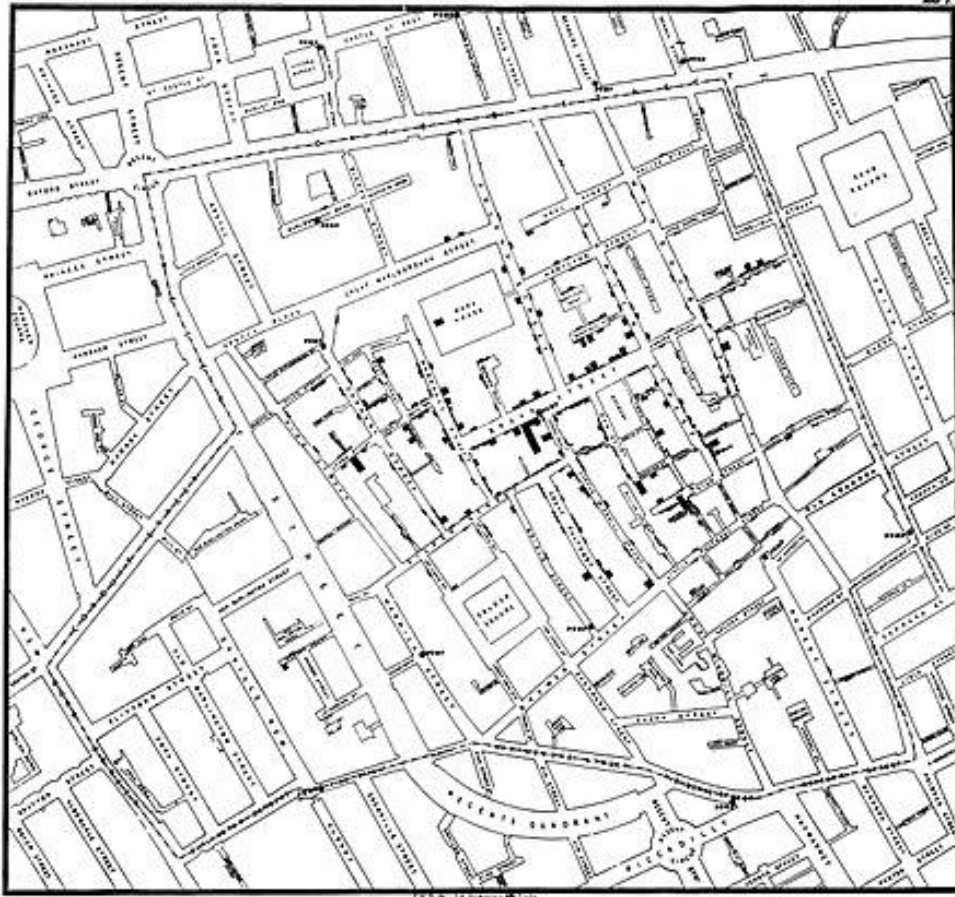


図 1 19 世紀中頃のコレラ感染者のマッピング (ロンドン)

[https://ja.wikipedia.org/wiki/ジョン・スノウ\\_\(医師\)#/media/ファイル:Snow-cholera-map-1.jpg](https://ja.wikipedia.org/wiki/ジョン・スノウ_(医師)#/media/ファイル:Snow-cholera-map-1.jpg) より引用

話を今に戻すと、多くのメディアで新型コロナウイルス感染者の広がり具合を、地図をベースとして表示している事例を多く見かけます。既に Web で地図を公開しているサイトもありますが、実はその地図を皆さんも作ることができます。材料は Web で公開されている地方自治体別の感染者数、G 空間情報センターに登録されている行政界データ、ツールは地理情報システム (GIS) を使います。お勧めのツールは、急速に普及が進んでいるオープンソースソフトウェアの“QGIS(<https://www.qgis.org/ja/site/>)”です。GIS の操作を少し勉強することで、自前で様々な表現の地図を無料で提供されているデータやツールだけで作ることができます。また、GIS は、いろいろな地図データを重ね合わせて表示できるため、関係ないと思われる地図のデータを重ね合わせて視覚化し、関連性を見出すことが可能となります。

### ●G 空間情報センターへの期待

このようなユーザの使い方を考慮すると、G 空間情報センターには、地図データのプラットフォームとして、「ここに来ればなんでもある」的な役割を果たすように、引き続き多くの地図データの登録・配信を期待いたします。最近では、地図データをダウンロードする使い方ではなく、国土地理院のタイル地図 (地理院タイル) のように Web 配信する地図をそのまま GIS で利用できるため、このような Web 配信が増えてくると、さらに利用者は G 空間情報センターの価値を見出してくれるのではないのでしょうか。



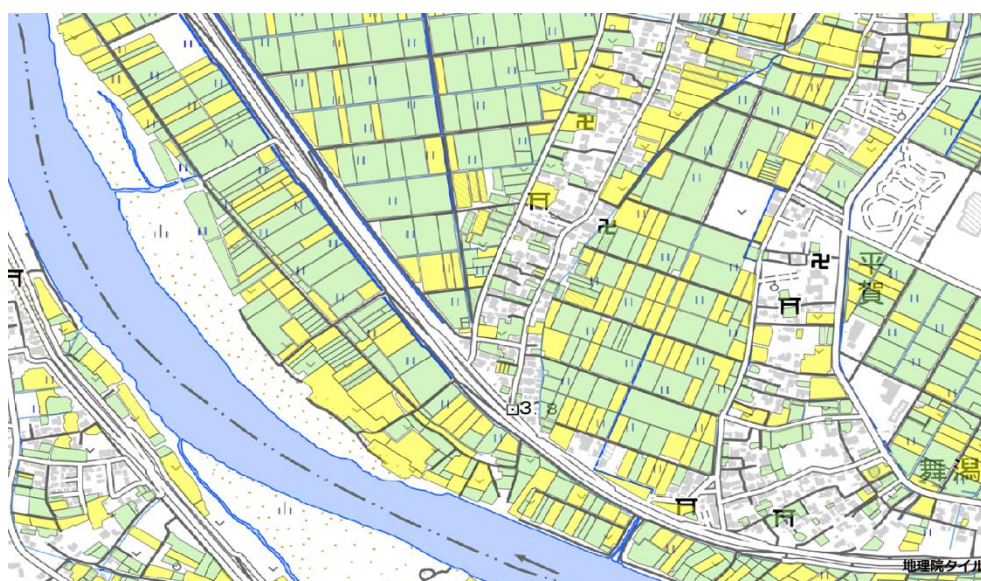
図2 G空間プラットフォーム イメージ

●<最後に>G空間情報センター利用の皆さんへ

恐らくこれまでにG空間情報センターを利用されている方でも、なかなか業務以外で触れる機会が少ない方も多いのではないのでしょうか。このような時期だからこそ、家の中で国・地方自治体やG空間情報センターから提供されているデータをGISで利用・解析し、ジョン・スノウになった気分でじっくり様々な角度から新型コロナウイルスについて考察してみてはいかがでしょうか。

5.注目の新規コンテンツ紹介

農地筆ポリゴン(世界測地系)



農林水産省が提供する農地筆ポリゴン（平面直角座標系：shp 形式）を 世界測地系 shp 形式及に変換、属性情報として市区町村コード、市区町村名を追加したデータです。  
農地筆ポリゴンの重心座標（世界測地系 XY）のみの CSV も別途収録しています。

\*下記リンクは北海道地域のデータです

[詳細はこちらから](#)

### ご意見・ご要望について

G 空間情報センターは、高度な地理空間情報社会の実現と皆さまの事業の発展に寄与・貢献できることを目標としています。

当センターへのご要望、ご意見、ご助言等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。  
最後までお読みいただき、ありがとうございました。

G 空間情報センターのユーザーアカウント登録は、[こちら](#)

G 空間情報センターのご要望、ご意見は、[こちら](#)

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-10-5 代々木伊藤ローヤルコーポ 304 号室

メール：info@geospatial.jp

TEL：03-6455-1845

※当ニュースレターの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。